

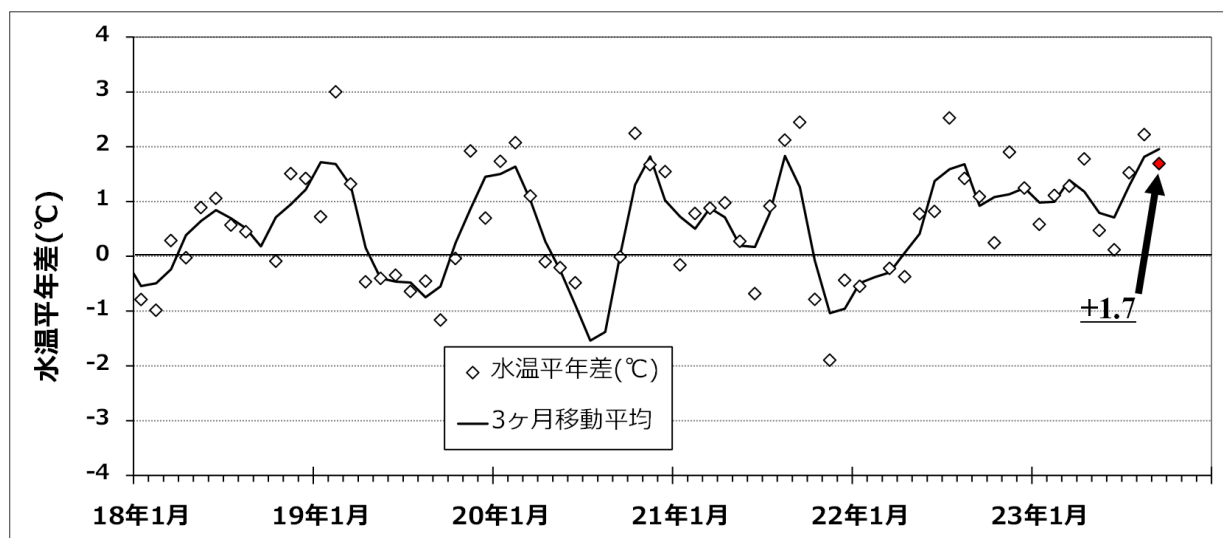
【水温の変動】

9月19、20日に、調査船海幸丸による渥美外海の観測を実施しました。

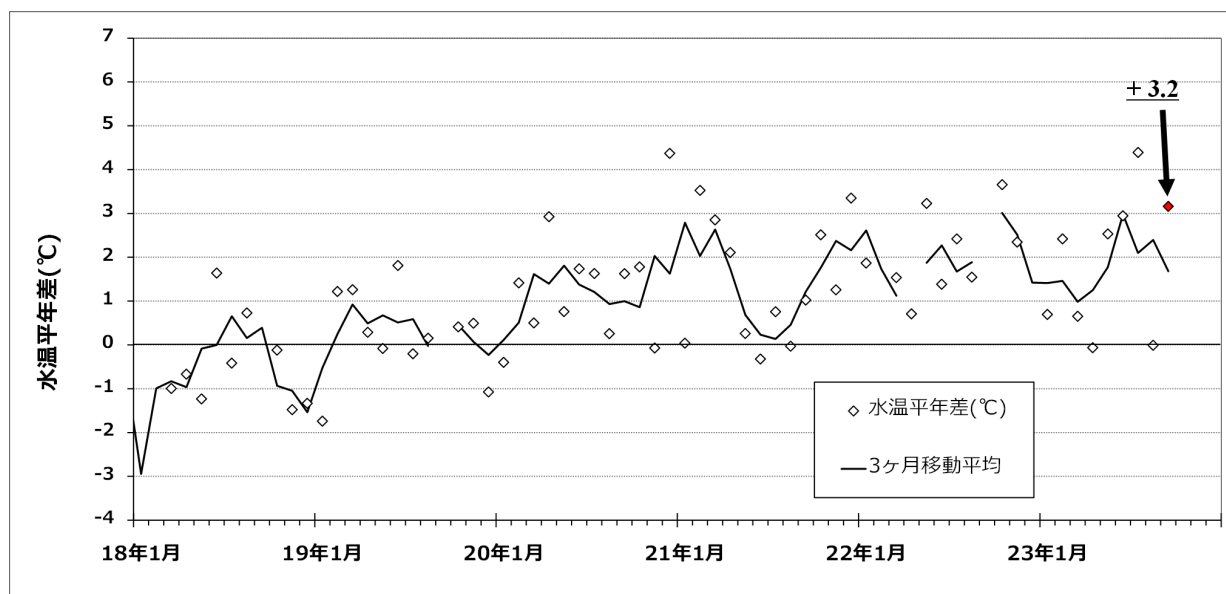
湾口部の表層水温は平年差+1.7°Cで高めとなっています。沖合域の200m深水温は平年差+3.2°Cで極めて高めとなっています。

9月19日の人工衛星画像によると、黒潮は大王崎沖北緯31度付近から御前崎沖北緯34度付近を通過するAs型流路となっています。黒潮が御前崎に接近しているため、渥美外海に黒潮系暖水が波及しています。

【湾口部表層（A1）における水温平年差の変動】



【沖合域水深200m（A4, A12, A19の平均）における水温平年差の変動】



※水温平年差は過去10年平均値との差

【渥美外海の海況】

渥美外海の表層は、黒潮が遠州灘に接近する影響で、沖合域が一様に高温となっています。また、沖合の表層に黒潮系水が分布する影響で、クロロフィル a 濃度は亜表層で高くなっており、沿岸域で表層を中心にピークがみられたクロロフィル a 濃度の高い水塊は、沖へ向けて亜表層へと帯状に続いています。

渥美外海の 100m 深の水温は、岸側から沖へ向けて 4°C以上の差が生じるとともに、等温線が沖へ向けて高くなっており、強い南西風が続いていたことから東への流れが発生していると考えられます。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

